

田辺市総合計画審議会

第1回分科会

(現本庁舎跡地利活用)

会 議 録

田辺市総合計画審議会第1回分科会（現本庁舎跡地利活用）会議録

日 時	令和3年7月21日（水）午後1時25分～午後3時
場 所	市役所本庁3階 第一会議室
出席委員	8名
欠席委員	1名
傍 聴 者	一般1名 報道1名
会議事項	1. 開会 2. 座長紹介 3. 議事 (1) 現本庁舎跡地の利活用分野・方向性について (2) 利活用検討の進め方について (3) どのように庁舎跡地の方向性を後期基本計画に記載するか (4) その他 4. 閉会

1. 開会

2. 座長紹介（事務局から説明）

3. 議事

(1) 現本庁舎跡地の利活用分野・方向性について（事務局から説明）

（藤田座長）

現本庁舎跡地の利活用分野・方向性についてという議事に関しては、市民アンケートの結果を踏まえつつ、委員の皆様がどのようなことを考えられたかといったご意見を頂戴する。

議事2つ目の、利活用検討の進め方については、ご説明の中にあった、利活用を検討するような部会的なものを作る、あるいは、それをどのような構成メンバーで行うのがよいか、民間の視点の導入はどう考えるか、これについて意見をいただきたいということ。

議事3つ目の、どのように庁舎跡地の方向性を後期基本計画に記載するか、令和4年度からの後期基本計画の中にどのように記載するかというのは、2番目で議論された内容を書き込むかどうかということによろしいでしょうか。

（事務局）

そうです。3つ目の部分ですが、前回の審議会でお渡ししたものですが、赤字の部分が庁舎跡地に係る部分になりますが、これでよいかということと、ここがない部分で座長がおっしゃっていただいた今後の進め方等についても、ここに加えていくのかといった内容のご意見もいただきたいと考えております。

(藤田座長)

では、議題1、2についてはざっくばらんに意見をいただきますが、議題3の赤字部分については再度ご議論されたりしないということによいですか。

(事務局)

そうです。本日は文言までご議論いただくというよりも、このような表現を盛り込んだ方がよいのではといった大まかな概要をご議論いただけたらと思っております。

(藤田座長)

では、まず1つ目です。現本庁舎跡地の利活用分野・方向性についてですが、市民アンケートを出してください。市民の声がこれになります。セッかくなので、委員の皆様からお一言ずつ、これをご覧になりどのようにお考えか、また、ご自身がイメージされていた跡地利用の方向性というものと同じだったか、ギャップを感じたなど、感想をお伺いできればと思います。

(A委員)

アンケート結果を見ると、そのとおりだなということと、資料を見ると市街地のにぎわいというのがキーワードなのかなと思います。にぎわいが商店なのか、文化なのか、両方なのかということも当然あると思うのですが、よく市長が言う関係人口の増加というのがキーワードに繋がってくるのではないかなと。アンケート結果についてはずっと入ってくるという反面、民間がするかどうかは別にして、大きな箱物はどうかかなと、そのバランスなのかなというのが第一印象でした。

(藤田座長)

大きな箱とのバランスというのは、どのようなことですか。

(A委員)

人が集まるような施設とか、大きなホテルを市が経営するかで違ってくるので、にぎわえばよいのですが、工夫なり何か案が出ればおもしろいかなと思います。

(B委員)

ホテル事業をどうするかということなのですが、前提条件として文里湾に橋が架かるので、車の流れが相当変わることが予想され、扇ヶ浜沿いの通行量が増えることが見込まれます。ホテルでいえば、建てる場所は、今の庁舎位置よりも、道を挟んで向かいの駐車場の方が、はるかに有利な場所という感覚を持っています。そこに建てられるか不明ではありますが。

観光関連であれば、現庁舎の位置よりも、道を挟んだ駐車場の方が、おそらく商業価値としては高いかなと。そうすると、跡地利用というと、ここだけの話になっているが、駐車場、市営住宅を含めて、湾岸道路、三壺崎、文里に至るまでを考えて、全体を市としてどのようにしたいのか、市民は何を望むのかということを考えて議論しないと、ここをどうするかという話

ではないと思います。

跡地に焦点を絞りすぎても、将来の市のランドデザインを考えたとき、的外れな結果にならないかという懸念があります。

(藤田座長)

今のご提言について、先ほどの説明にもありましたが、都市マスタープラン、景観計画等、全体を見ながらどう考えるかということですが、この場でどうするといったことではなく、実際に検討していただく組織に、考え方として持っていただくということを分科会としてまとめるということです。

(C委員)

エリアマネジメント、生産性を伴う地域のリノベーションという観点に立つてする必要があらうと思います。リノベーションというのは、ご存知のように、今までのものを生かしながら、新しいものを知るということになると思いますので、生産性のある施設、仮に量販店ができれば、そのキャッシュフローが地域へ出ていく、動いてキャッシュフローが出る、コミュニティバスとか、今、動きがあると思うのですが、ここで考えないといけないのが、新庁舎とどのような形でリンクしていくか、相関性を持たせていくかだと思っています。新庁舎というのは今のポジションからいくと、立地特性から考えると、広域圏の庁舎という捉え方もできると思っています。

その話の裏付けで多様な働き方ができる都市10万というキーワードが出ています。日経新聞の中で、多様な働き方ができる10万都市の上位を占めているのが68パーセントらしいです。首位は石川県小松市です。田辺広域連携ということで、田辺、みなべ、上富田、白浜、すさみ、2020年の数字で12万くらい。国勢調査で田辺は7万を切っていると聞いているのですが、B委員が言っていたランドデザインというものを考えると広域連携というのは看過できない観点かなと思っています。そこからエリアマネジメントである、教育研究所、文化会館とありますが、資料の中に、施策3の文化振興、紀南文化会館ではというくだりがあり、老朽化の進む紀南文化会館の大規模改修に向けた取り組みを進めます、とあります。ここも連携して考えると、文化会館の方向性や、現庁舎のリノベーションか改築になるのか分かりませんが、用途をどうするかが連携して出てくると思っています。手法ですが、海、ベイサイドということを見ると、文化会館の改修、現庁舎のリノベーションを踏まえると、守口や芦屋のように、ペレストリアンデッキ手法というのがあります。文化会館の2階アプローチ部分から海側へフロアを延ばす。建築制限を超えれば大丈夫で、浜松がそうなっています。ホテル部分とペレストリアンデッキを複合ではなく、融合できるかもしれない。

(藤田座長)

皆さんの思いを他にも出していただければと思いますが、他にいかがでしょうか。

(D委員)

思っていることは先ほど見せていただいた3つのエリアのどこに埋め込むかということです。自分は青色の部分、扇ヶ浜とこの辺りを一緒に使えればいいかなと思っています。今、南海トラフ大地震が必ず来ると言われている中で、新しいものを建てるのは難しいのではないかなと思っています。海を使ったところを検討していければと思います。箱物があるというのはどうかと思います。

(E委員)

エリアで考えるのは重要だと思います。土地だけの話では収まりきらないだろうなど。そうなった場合、活力という部分を大事にしたい。お金を生み出すというのがなければ、経済がしっかりしないと、まちは持続可能にならないと思いますので、経済的に豊かにする方向性がほしいと思います。

(藤田座長)

D委員がおっしゃっていた、にぎわいを取り戻すという発想もある一方で、南海トラフ大地震がいつどうなるか分からないということもある中で、物が建っていると色々なリスクを抱えなければならないという点と、E委員がおっしゃっていた、にぎわい、活性化、経済をまわすといった、このバランスですが、どのような形で、具体的にグランドデザインに表れてきそうだというイメージはありますか。

(E委員)

民間が潤うというのがひとつですが、行政が潤うことも大事だと思っていて、それは税収です。これで十分に潤う土地だと思うのですが、建物が建った時に、津波を回避できるような方法があるのか、これは専門家に聞きたいところです。実際、武道館も建ちましたが、そこも考慮されていると思います。あとは、まち全体の機能として、例えば10万都市としてのどんな機能がこのエリアには不足しているのか等も考える必要があるかなと思います。

(藤田座長)

高度成長期に言われたような、外からの資本がくれば何とかなるのではなく、地元の業者が6次化など様々な形で結び付き、地域の中でお互いが経済を運用し、再投資できると、地元の業者も潤うし、税収という形で自治体も財源を潤す形になるというイメージですね。

(F委員)

南方邸、闘鶏神社、武道館の中の顕彰館。この3角形に庁舎跡地が入るのでしっかり考えるべきで、また、市内にホテルが必要か本当に考えるべきだと思っています。江戸の町というのは火事を想定して、簡単に作っていたそうです。そのようなものをひとつの参考材料として、大きな物を作るのではなく、地震や津波をやり過ごすことが必要なのかと思います。

(藤田座長)

ご存知であれば、そういったことをイメージできるまちはありますか。

(F委員)

ないです。

(G委員)

大阪からIターンで移住し、22年になります。地元の方と話をする中で、文化的なこと、交通のことが気になる。市長が最初に当選したとき、交通の便が悪いのでそこを考えてやってくださいと言ったことがあります。今は運転できますが、もっと年をとっても活用できる場所、集合できる場所があればいいと思っています。今はそれが文化会館であるので、そこを改築していただきたい気持ちはあります。別のものを建てるということも他の委員が言われていましたが、文化会館は田辺市が誇れるホールであると聞いているし、実際すばらしい場所だと思っているので、文化的なこともう少し考えてほしいと思っています。ただ、交通の便、車がなければいけない。乗合バスといったものも田辺市はないので、そういったものができ、皆が集まれる場所があれば、年配の方、Iターンの方が増えると思います。都会の方は文化的なものを好むと思います。

(藤田座長)

これからの地方都市はI、Uターンを含めた関係人口のようなことを考えないと、先が見通せないというのは確かだと思います。

交通アクセスに関する問題については、全体のアンケートでも声が大きかったと感じています。田辺はエリアが大きいということも関係していると思われます。ただ、昔は交通アクセスにしても、集積することが便利という考え方がありましたが、今は集積する利便性より分散させることでリスクを避けるという考え方も出てきているので、文化会館も含めた文化的な機能を、分散させて残しておくといった議論、考え方も今後はあるかと思っています。

ここで跡地利用を決めるわけではないので、今後検討する分科会へ何か持って行ってほしい、考えなければいけないといった意見はないか。

(C委員)

最近、シェアリングというキーワードがあります。交通アクティビティという考えで大事であり、貨客混載というものがあります。神姫バスと農協が連携し、バスに農作物を載せてJAに行く、クロネコヤマトも同様のことをしています。路線バスから多様性を持たせた利用の仕方をしているところもあります。市内の循環の中で貨客混載を視野に入れながら、交通アクティビティを考えないと施設の流動性、人の流動性が出てこないと思っています。

(G委員)

上富田にあるコミュニティバスに興味があり、田辺でできないかと考えています。

(藤田座長)

今の議論は総合計画の全体会でお話いただければ実りがあるものになるのではないのでしょうか。簡単に共通項を整理すると、スポット的な考え方ではなく、大きなエリアで考えるといったことが皆さん共通した考えとしてあるかと思います。

それをどういった方が利用するのかといったイメージとの関係で言うと、市民にとって文化も含めた幅広いというところもあるかと思いますが、今後のことも考えると経済、にぎわいを考えると、市民以外の幅広い関係人口を集えるような場所にしていく必要性も一方ではあるのではないかと、この議論がもうひとつあるのではという気がしています。関係人口という関係で言うと、地域の中で商売をしている方々が連携しながら、経済も回す。それが結果的に自治体財政につながるという連関性を作っていく。地元業者が連携することによって地域の中で再投資をする仕組みを作るといった観点が必要だと思います。この辺りが共通するところですが、全体として気をつけなければいけない部分として、ここに津波がくる可能性があると考えた時に、安全をどのように確保するか、当然考える必要があります。ここは相反しますが、単に箱物を作ればいいのではなくて、そのようなソフト的な機能を持っているものも考え、検討する必要があるというのが共通事項かなと思います。他に無ければ、次に進みます。

(B委員)

文里湾に橋が架かると車の流れが大幅に変わるという話をしましたが、海岸沿いの不動産の商業的な価値を高めようと考えたら、田辺インターチェンジから直接江川地区に行けず、大型観光バスなどが浜の方に直接入れない道路事情となっていて、これを解決しなければ、我々が思い描くような海岸部分の再開発は難しい気がしています。

跡地利用の話が発端であるが、インフラとして道路事情も十分考えて、施策を講じないと、臨海部分の価値が半減してしまうという思いがあります。

(藤田座長)

エリアマネジメントを考える上で、交通アクティビティともリンクして考えなければいけないといったことですね。1つ目の議題として、分科会としては、今まで私の方でいくつかあげさせていただいた論点を、検討の具体的なあり方の中でお考えいただきたいと申し送りさせていただきたいがよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(2) 利活用検討の進め方について

(藤田座長)

先ほどご説明がありましたが、利活用検討部会というものについて、アンケート、総合計画での議論の方向性を踏まえながら、設置するのがいいのではないかとということと、設置するにあたり、行政だけですか、民間の考え方を上手く活用するのかということですが、今の

ご時世なので、後者と思いますが、基本的には利活用検討部会のような組織を作っていただき、審議会でのご意見やアンケートからも汲み取ってほしいということで、皆さんいかがでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(藤田座長)

では、メンバーはどうするかということですが、既存の団体組織だけにするか、この審議会のように公募で入っていただく方もいますし、関係人口という視点で言うと、地域おこし協力隊、Iターン、移住者、10年、20年先のために高校生の意見を聞いておく必要があるなどもあります。具体的でなくてもいいのですが、皆様いかがでしょうか。若い世代が当事者性を持って関わったということが必要だと思うので、私としては若い世代に関わっていただくのも大切だと思うが、皆様いかがでしょうか。

(G委員)

若い世代の意見は大切だと思いますので、賛成です。

(藤田座長)

Iターンされた方についてはいかがでしょうか。

(G委員)

どちらかと言えばIターン組より、自分としては歴史や繋がりもありますので、地元の方、学生などの素直な考えがよいと思っています。

(藤田座長)

Iターンの方は、もともとの方々と考え方が違いますが、その違いを認め合うことで新しいものができるので、それはそれでよいと思っています。田辺は歴史的にも様々な方々を受け入れてきた地域ですので、気後れせずにご意見をいただければと思います。

(D委員)

僕も思っているのは学生、高校3年生がいいと思っています。田辺の高校生はほとんど出ていきますし、出ていくべきとも思っていますが、戻ってきてもらえるような形のものを作りたいと考えています。令和6年度が解体で、まだ大学を卒業していない時だと思いますが、その方々が大学を卒業して、社会人となって再び田辺に戻ってこられるような、何を作りたいかという話を聞いてみたいと思います。

(藤田座長)

すぐ卒業して地元に着いてという話ではないが、大学、就職で外に出るにしても、ふるさとを見つめ直すきっかけを持って出ていくということでは色々意味が変わってきますね。3年生がいいのか2年生がいいのかはいろいろありますが、ひとつは高校生ですね。次回は高校生の意見を皆さんにも聞いていただこうと思っております。

(A委員)

私も若い人に入っていただくことはそうあるべきと思うのと、バランスよく配置していただき、都市づくりという点もありますし、跡地にフォーカスした時、さすが田辺と言われるような、少しとんがったものを出す方が自分はおもしろいと思っています。そういう意味では、若手の意見が悪くなりすぎないような組織づくりが必要かなと思われまます。

(藤田座長)

とんがり方をどうするかということですが、例えば大阪では、産業ビジョンの策定に大学生を入れているところもあります。意見を聞くだけでなく、総合計画審議会の委員になってもらうことも考えてもいいのですが、高校生というのは難しい部分があるので、田辺の出身の大学生に委員に入ってもらう等もとんがり方としてはありかなと思います。既存団体については大人が責任を持って関わる必要があるのではないのでしょうか。

(C委員)

高校3年生に対し、4年後楽しみにしているの帰ってきてほしいと伝えるのもありではないでしょうか。多世代という表現をよく耳にしますが、年配の方の経験を聞きながら、若者の意見も付度せずに聞くことが必要だと思います。よそ者も2種類あって、純粋に外から来た、環境が違う方が来る場合と、田辺以外の行政、白浜、みなべなどどこでもいいが、そういうところから委員に参加いただくのもありではないでしょうか。

(藤田座長)

広域、エリアの考えですね。跡地利用の意見をいただくにあたり、必ずしも田辺に限らないというのはありかもしれません。ただ、関わったという当事者意識を高校生に持たせるのよいと思いますが、責任を持たせるのはマイナスに働く可能性もあるかと思ひます。

(E委員)

高校生は1番大事だと思います。Iターン、Uターンでも、若くして戻ってきた方の意見を聞きたい。イベント的にどのエリアならいいかというのも小学生などに聞いてみたいと思ひます。

(藤田座長)

Iターンの若い人でいうと、吉備野町でのことだが、子供が生まれて初めてコミュニティに受け入れられたといったこともあった。子育てで忙しいが、この世代もいいかもしれません。

(F委員)

市役所が津波のことを考え、移転するのか、単なる老朽化で移転するのか、基本的には津波のこないところへ行くだろうと思いますが、これを押さえた上でしなければと思っています。東日本大震災の1週間後を現地で見たとした場合は、常に根底に考えてほしいと思っています。

(藤田座長)

B委員はいかがでしょうか。

(B委員)

若い人中心でいいと思います。20年、30年先にしっかり頑張ってまちづくりの中心になるでしょうから。

(藤田座長)

先ほど、C委員がおっしゃった田辺市以外の委員ということについてどうでしょうか。

(B委員)

縁もゆかりもない方が入ってもいいと思います。

(藤田座長)

そこはあまりするところがないので、とんがっている部分になるかもしれませんね。田辺市らしい会議の持ち方で注目されるかもしれません。

(C委員)

議会の委員会でも、第三者の視点で言っている場合もあるのでありかなと、周辺広域といったことでいかがでしょうか。

(藤田座長)

周辺広域といった話であれば全くない話ではなく、みなべ町など近隣からもありだと思います。市には、今までの議論をまとめて、つないでいただければと思います。

少し整理をすると、利活用検討の進め方については、基本的には民間の活用を考えながら、丁寧なサウンディングをしていただきたいということが共通意見であるということ。検討会メンバーについては、場合によっては高校生を含めた若い方々の意見や、Iターン、関係人口的な目線から議論をしていただける方、場合によっては田辺市とは全くゆかりのない方、広域という視点で田辺市周辺の可能性もありますが、そのような視点からご議論いただける方に委員に入っていただいてもいいのではないかと。このようなところが共通事項と思われると思います。よろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(藤田座長)

では、事務局において、その方向性をまとめるようお願いします。

(3) どのように庁舎跡地の方向性を後期基本計画に記載するか

(藤田座長)

少し事務局からもご説明いただいていたのですが、この書き方について、事務局から説明よろしいですか。

(事務局)

先の審議会で提案しました、庁舎跡地の文言については、分野で言いますと、商工業、都市生活環境で示しています。今までの議論の中でいただきました意見を細かなところまで盛り込むことができないのが総合計画となっております。

そうした中で、商工業と都市生活環境の2点にわたって書いているのですが、ご意見等お聞かせいただく中で、商工業だけではなく、多分野において連携が必要ということが当然あるかと思いますので、商工業の分野に書いております内容等を、都市生活環境の分野にまとめた形で、なおかつ、まちの現状と課題の修正案の部分に、今いただきました、民間の活用や、今後組織を作って若者の意見や、他の広域的な考え方を含めて経済を回す、関係人口の視点も盛り込み、再度、事務局で案として作り、8月23日の全体会までに皆様に提案したいと考えております。

その後、メール等でご意見をいただいた後、修正し、審議会に臨むといった方向で進めたいのですが、いかがでしょうか。

(藤田座長)

事務局からご提案いただいた方向性でよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(藤田座長)

私として、もう一点注文を付けるとすると、議論の中で若手という話があったので、例えば、教育としての視点から、次の世代の田辺を担う若者たちにも当事者意識を持って考えていただいてほしいということは、メッセージとして総合計画の中に入っているのもいいのではという気もするのですが、いかがでしょうか。単に、都市生活環境にはならないと思うのですが、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

庁舎跡地という考え方だけではなく、総合計画全体で、若手の意見や将来についての部分を大きなカテゴリーの中に盛り込むようにしたい。

(藤田座長)

そうですね。跡地利用のことだけでなく、将来の田辺のまちをどうしたいかというところに、次の世代の方々に関わってもらって当事者性を持ってもらうということは、ぜひ入れていただくのがよいかと思います。アクションプランの箇所に盛り込んでいただくことも可能かと思いますが、ご検討いただきたいと思います。

(4) その他

(藤田座長)

3つの議事に関して、皆様からのご意見をまとめさせていただくことが出来たかなと思っておりますが、他にご意見等ございませんか。

(E委員)

広い田辺市域の中で本当に狭いベイエリアなので、やはり大事だなと、旧田辺市は海辺のまちだと思う。この辺りを今回の跡地利用の中で忍ばせてほしいという思いはあります。今後、進めていく中で考えていただければと思います。

(藤田座長)

田辺市域全体をどうマネジメントするかという発想の中で、湾や海を抱えている地域と、山の地域と、中間的な地域をどう総括して発展させていくのかという話ですね。今の視点も総合計画全体の中に反映させていただきたいと思います。

(C委員)

後期基本計画原案の P66、③の中に、田辺市景観計画が入っているので、そこへ盛り込めるのではないかなと思います。

(藤田座長)

今のご意見も踏まえた上で、事務局で検討をお願いします。

皆様のご協力のおかげで、適正な時間で議論できましたので、分科会を通しての感想を皆様から一言ずつ頂戴し、事務局へお返ししたいと思います。

(A委員)

皆様お疲れ様です。見識の深い方々が多く、非常に驚きました。来る前は、跡地にこんなのが出来ればいいかな、などと思っていました。関係人口の先にはお金の面もありますので、今後、田辺市がどう生き残っていくかの布石になればという思いがあります。このような話がで

きて非常にうれしく思いました。ありがとうございました。

(B委員)

ありがとうございました。本日の会議というか、市へのお願いになりますが、資料作成は大変だと思いますが、これを作るのが仕事ではなく、いかに形にするかが皆さんの仕事です。また、計画に書かれている文章を読んでも、熱い思い、意気込みが伝わってこないで、市の職員が市のことを考えて、こうしたい、こうあるべきという思いが伝わるような作文をしていただければよいと思います。

(C委員)

ありがとうございました。ひとつ補足的に忘れたことがあります。10万都市の部分石川県小松市というところでのキーポイントが、学童を含む保育環境を充実させて、福祉施設の充実度が最高点だったというのがキーポイントです。エリアマネジメントを実施していくには、キャッシュフローをしてくれるのはどこの層かということを抑えた時に、私一人で来るよりも、親、子供がいれば、可処分所得があるため、税金が増えます。小さい子供のアクションを吸収するのが大切かなと思いました。

(D委員)

ありがとうございました。難しい問題だと思います。部分的に考えるのは難しいのではということはある前から思っていました。やはり、全体的に考えると皆さんの思いは一致していたので、そのような形で考えていただけたらと思います。

(E委員)

エリアで考えるという考え方が共有できたので、前を見て進めやすくなったと思います。ありがとうございました。

(F委員)

ありがとうございました。文化会館の横に引付いて、何ができるのかといったイメージしかなかったのですが、色々なご意見をお伺いし参考になりました。

(G委員)

昨日までは大変な役を引き受けたと思っていましたが、とても参考になりよかったです。今後ともよろしくお願ひします。勉強させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

(藤田座長)

ありがとうございます。皆様の協力のおかげで、60分から90分というのがコロナ禍の中での目標としていたので、ありがとうございました。市役所に対して厳しい意見もありましたが、これは当然であるとして、他県の審議会をいくつかさせていただいた経験から言いますと、分

厚い資料をつくるのは大変だが、ここまで丁寧に資料を作る自治体はあまりないです。そういう点でいえば力量は相当なものと思っています。ただし、本当に形にできるかどうかというのは市役所だけでなく、市民協働の視点から、みんなで作った計画をしっかりと進めていこうとみんなで後押ししながら実現していくことができれば、作ってよかったということになりますので、皆で頑張ればいいなと思っています。

本日はたくさんご意見をいただきましたので、事務局には今日の議論をまとめ、後期計画に反映させていただき、次回の審議会で、全委員さんへご提起いただくようお願いいたします。また、今後も、現庁舎の跡地利活用の検討の方向性、どのような組織を作っていくということに関してもご意見を頂戴しておりますので、その視点を十分に反映していただきたいと思います。

4. 閉会